



手づかみで買はれてこそその秋刀魚かな

吉原瑞雲

昨今、高値の秋刀魚は宝物のように扱われる。そのことが作者は不満なのである。昔は手掴みで「こんだけ」と言い、安価で庶民の味方だったなあ。



クワガタのチクチクとして心地いい

山下正純

少年の頃の思い出でしょうね。正純少年にとってクワガタは親友だった。クワガタを見ると、当時の皮膚感覚が蘇る。最も強い印象が俳句になった。



パトカーに付き纏われる厄日かな

下嶋四万歩

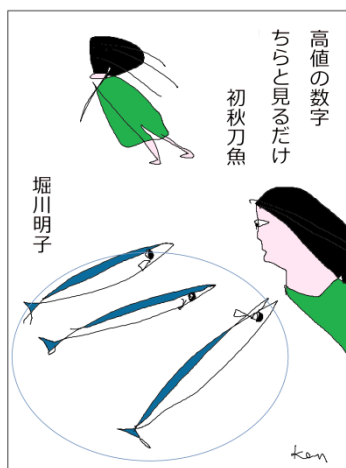
厄日とは俳句では「二百十日」のこと。農家にとっては特に要注意の日。パトカーを見かけた時も要注意。疑いの目で見られることも確かに厄日。



駅を出で西日のあいさつお呼びでない

土屋泰山

駅にある西口と東口。夕方、西口から出れば大方こんなことに。西日は待ち伏せしているのである。西日に悪意はないのだろうが、挨拶も迷惑。。



高値の数字ちらと見るだけ初秋刀魚

堀川明子

「店頭や秋刀魚を見ずに値札見る」という奴だね。ニュースで高値と知っていても値札を見て確認。これが松茸だと、最初からチラとも見ない。



夕焼道我が影あしながおじさんに

本門明男

西日を背に受けて立つと足長になる。愉快だ。『あしながおじさん』の小説にもつながり優しい気分にもなる。よし、裕次郎になりきって帰るか。

■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

- | | |
|--------------------------------------|------|
| 一太刀は居合抜きなり秋の雷
・・・返す刀で列島ずたずた | 高田敏男 |
| 囧鮎渡る世間は巽ばかり
・・・水の中でも気を許せない | 柳 紅生 |
| 七三にびつちり分けてくる野分
・・・そんなに野分紳士なのかよ | 小林英昭 |
| 脱ぎ捨ては我にもありて蟬の殻
・・・蟬じゃないから度々着るが | 久松久子 |
| 水馬に付けてやり度き滑り止め
・・・あめんぼといふ甘えん坊に | 白井道義 |
| 走ったら会いにいけそな月がある
・・・抱くにやちよっと大き過ぎるか | 井口夏子 |
| 新涼の水に溺れる新豆腐
・・・二つの季語で水あふれさせ | 稲葉純子 |
| 割り箸を折つて胡瓜の馬の脚
・・・上手く出来たよハイセイコーだ | 岡田廣江 |
| 米茄子の尻重たげに厨かな
・・・尻のでかくて多産系なる | 太田史彩 |
| 落蟬や成さねばならぬに野垂れ死に
・・・駄目駄目人は百歳時代 | 田中 勇 |
| 三頭身いづれも合はぬ宿浴衣
・・・一晩ぐらい我慢をしなよ | 田中早苗 |
| この夏の右の左の工事音
・・・その分暑い夏となったか | 山本 賜 |
| 前方後円に卓袱台並べて盆支度
・・・卓袱台どれも昭和のかたち | 原田 暉 |

■今月の滑稽句

- | | | |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 進化して変温となる猛暑かな
ごきぶりを一打にしたる蠅叩
扇風機の風下占拠親子猫 | 相原共良
相原共良
相原共良 |
| | お迎えをお断りして魂送り
夏瘦のリバウンドする豊の秋 | 青木輝子
青木輝子 |
| 【佳作】 | 妻と母板挟みされ穴惑 | 青木輝子 |
| 【佳作】 | 東京は暑い大阪はもつと暑い
終活といふに仕事の依頼あり
殺されに現はれたまふ御器かぶり | 赤瀬川至安
赤瀬川至安
赤瀬川至安 |
| 【佳作】 | 秋空や牛曳く若衆鼻ピアス
女ごころ男ごころや秋の空
共に紅葉見る人なきもみじめかな | 荒井良明
荒井良明
荒井良明 |
| 【佳作】 | 颱風の賑やかしたるシャッター街
風下に猫の行列焼さんま
堂々と酒が飲めるや秋祭 | 有富洋二
有富洋二
有富洋二 |
| | 台風や浅い傷つけ逃走す | 井口夏子 |
| 【佳作】 | 三日月や掴む拳の中に消ゆ | 井口夏子 |
| | これぞアートイレの壁のピカソ哉 | 池田亮二 |
| 【佳作】 | 炎天に浅間の山は素っ裸 | 池田亮二 |
| 【佳作】 | ゲレンデの向日葵たちの熱視線
虫しぐれ本に歯ブラシ湯にひたる
迷い来ぬ蛙導く秋草生 | 石塚柚彩
石塚柚彩
石塚柚彩 |
| | ハラハラとハラスメントの夏騒動
沸き起こるパワやセクやの夏嵐 | 泉 宗鶴
泉 宗鶴 |
| 【佳作】 | 台風一過二十禍三十禍の置き土産 | 泉 宗鶴 |
| | 乗り物は南瓜の馬車よいかさま師 | 伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 火葬にされる予行演習猛暑の日
案内の来て驚きし敬老会 | 伊藤浩睦
伊藤浩睦 |
| 【佳作】 | 年金も天引きされて秋刀魚缶
面黒き白粉花の頭がい骨
極楽へレモン月夜の迷ひ道 | 伊藤洋二
伊藤洋二
伊藤洋二 |

- | | |
|---|----------------------------|
| 霧深し見知らぬ人に会釈して
苔の花踏まないやうにふんでをり | 稲沢進一
稲沢進一
稲沢進一 |
| 【佳作】一日が始まる元気栗拾ふ | |
| 【佳作】八頭考へなかなかまとまらず
名月の健康寿命億単位 | 稲葉純子
稲葉純子 |
| 喫煙所あれば吸う人蟻地獄
目高の子学校休みてんでんに | 井野ひろみ
井野ひろみ
井野ひろみ |
| 【佳作】ストレスを発散せしやはたたがみ | |
| くるりん(観覧車)は夜の花火や仰ぎ見る | 上山美穂
上山美穂
上山美穂 |
| 【佳作】トンボと蝶いっしょにとんでもいいじゃない
川の合流点見つめる渡り鳥おまえもか | |
| 人住まぬ故郷の庭のこぼれ萩
静けさの中に身をおく夜長かな | 梅岡菊子
梅岡菊子
梅岡菊子 |
| 【佳作】老若の膳に添へたる菊の花 | |
| 供へるや新茶一服亡き夫へ
風抜ける淡路の海の秋静か | 梅野光子
梅野光子
梅野光子 |
| 【佳作】俳人としてリビングに秋草を | |
| 星飛ぶに願ふこと等忘れけり | 太田史彩
太田史彩 |
| 【佳作】台風禍地球の怒り収まらぬ | |
| 夏祭赤い鼻緒で若返り
身ひとつの渴き潤す有の実よ | 小笠原満喜恵
小笠原満喜恵
小笠原満喜恵 |
| 【佳作】平成を愛しむ台風次々と | |
| 【佳作】懐かしきテレビの瀬戸の秋夕焼
句会あとの心の穴に色なき風 | 岡田廣江
岡田廣江 |
| 颱風に一瞥されて金縛り
秋立つと気を持たせては肩透かし | 小川鈍太
小川鈍太
小川鈍太 |
| 【佳作】この辺り同姓ばかり墓洗ふ | |
| 蛇口をひねれば熱湯といふ猛暑
台風になぶられてゐる大八洲 | 加藤澄子
加藤澄子
加藤澄子 |
| 【佳作】一度でいい覗いてみたい台風の目 | |
| 蠃螂の斧ふりあげしまま死せり | 川島智子
川島智子
川島智子 |
| 【佳作】鉦叩休む間おしみ鉦たたく
強風に吹き上げられし大揚羽 | |

- | | |
|-----------------------|-------|
| 流星やパンツのゴムが伸びきつて | 久我正明 |
| 【佳作】 流れ星そんなに急ぎどこへ行く | 久我正明 |
| ねこじやらし子犬はいつも足上げる | 久我正明 |
| 露一つ二つ三つと太りけり | 工藤泰子 |
| 【佳作】 木犀の云々かんぬん匂ひ出す | 工藤泰子 |
| 風の色浪漫漂ふ萬翠荘 | 工藤泰子 |
| 【佳作】 蚤沸いて戦時を父は懐かしむ | 桑田愛子 |
| 秋暑し靴にハケンと大書され | 桑田愛子 |
| 実石榴といふ難題を解く粒零し | 桑田愛子 |
| 睡魔くる母の夜食があだとなり | 小林英昭 |
| 【佳作】 手遅れと歯科医のもらす柘榴の実 | 小林英昭 |
| 朝霧に前髪濡らし登校児 | 近藤須美子 |
| 大輪の朝顔に吾励まされ | 近藤須美子 |
| 【佳作】 朝採れの茄子の艶やか吾をそそる | 近藤須美子 |
| 気まぐれなペアー台風にはか雨 | 佐野萬里子 |
| 草いきれ草の生命の証なる | 佐野萬里子 |
| 【佳作】 曼珠沙華里の墓への道標 | 佐野萬里子 |
| 【佳作】 身に沁むや預金残高減る速さ | 下嶋四万歩 |
| 秋の聲遠い風音近い耳鳴り | 下嶋四万歩 |
| 【佳作】 甚平の五尺五寸の空元氣 | 壽命秀次 |
| 妻帰省羽根伸ばそうにも伸びぬ羽根 | 壽命秀次 |
| 舐める如お尻嗅がるるメロンかな | 壽命秀次 |
| 【佳作】 空蟬にしがみつかれてあるマネキン | 白井道義 |
| 不細工に非ず四角の西瓜買ふ | 白井道義 |
| さとうきび広がる空の日章旗 | 鈴鹿洋子 |
| 胎の児の足を蹴る蹴る大花火 | 鈴鹿洋子 |
| 【佳作】 田んぼ売る噂広がる案山子にも | 鈴鹿洋子 |
| ピーマンふくらむ親も子もなく | 鈴木和枝 |
| 【佳作】 介護車送り出して蟬時雨 | 鈴木和枝 |
| 帰り道牛が先か馬が先か | 鈴木和枝 |
| 名誉地位かなぐりすてて小判草 | 高田敏男 |
| 【佳作】 占いは当てにはならず流れ星 | 高田敏男 |

- 【佳作】 自由課題の自由に悩む夏休み
両脇に曾孫卒寿の三尺寝
睡眠負債かたづかぬまま夏終わる
高橋きのこ
高橋きのこ
高橋きのこ
- これはもう敵討ちなる残暑かな
【佳作】 初秋のどれからよもうか新刊書
田中 勇
田中 勇
- 玉音や薯の葉枯れし運動場
【佳作】 博学を薄学と書き暑中見舞
田中早苗
田中早苗
- 台風の爪痕痛む倒木よ
前方の暗さが秋や迫りくる
【佳作】 茄子を焼く茄子に苛立ち見透かされ
田中晴美
田中晴美
田中晴美
- 【佳作】 葡萄吸ふ皺の気になる御ちよぼ口
韋駄天の御守り腰に運動会
おしいつく(法師蟬)おしっこかけて飛び去りぬ
田村米生
田村米生
田村米生
- 一人酒奥歯に芋茎運び入れ
秋鯖のじうじうぽんと身の爆ぜて
【佳作】 太刀魚の食後に舐める銀の指
月城花風
月城花風
月城花風
- 【佳作】 秋残暑いつまでいる気出でてよ
ニイニイのジイジイに負けぬ秋の空
土屋泰山
土屋泰山
- 美しい国に台風地震出水
一滴(つま)み砂入れ残暑見舞かな
【佳作】 短夜やヒデキ熱唱深夜便
飛田正勝
飛田正勝
飛田正勝
- 息んでも屁にもならない秋の昼
初恋のその名は秋子秋の暮
【佳作】 縁側に「と金」がひとつ秋の夜
西をさむ
西をさむ
西をさむ
- 【佳作】 台風のニュース地震で薄められ
秋刀魚焼く煙昔の五六割
長き夜にビールの缶でする積み木
花岡直樹
花岡直樹
花岡直樹
- 獲れ過ぎの秋刀魚の安値手を伸ばす
台風来蟬は早くも避難して
【佳作】 鬱鬱の吾を晴れやかに巨大虹
林 桂子
林 桂子
林 桂子
- 【佳作】 代読のごと宰相の広島忌
重要指名犯カラーポスター酷暑かな
原田 曄
原田 曄

- 【佳作】 冬瓜の畑に尻餅助けなし
婆諸君日焼け奨励ビタミンD
久松久子
久松久子
- 平和なり卓のバナナの熟れてゆく
立秋の季語や残暑に溶けてゐる
日根野聖子
日根野聖子
- 【佳作】 土鍋ご飯のお焦げ黒々敗戦日
日根野聖子
- 昼寝さす使ひすぎたる吾の海馬
目出度さも中位てふ八十路かな
廣田弘子
廣田弘子
- 【佳作】 痩せきれぬまま食欲の秋に入る
廣田弘子
- 台風の進路気紛れ気ままかな
値頃かなやっとなにする旬秋刀魚
細川岩男
細川岩男
- 【佳作】 老いの身を秋の夜長に委ねたり
細川岩男
- 【佳作】 西瓜買ふ糖度の数字信じきり
指揮棒を振るはいずれに蟬時雨
堀川明子
堀川明子
- 俳人や蚯蚓の声を聴き分ける
本門明男
本門明男
- 【佳作】 ケンケンパー路地の夕焼け使ひきり
本門明男
- 長患の夫のふぐり天瓜粉
退院の夫説き伏せて九月の遺書
南とんぼ
南とんぼ
- 【佳作】 いととんぼ愛のかたちは弓なりに
南とんぼ
- マージャンはニコニコばかり星流る
椋本望生
椋本望生
- 【佳作】 口先にぼうと火のつく鯛かな
チーママのカットグラスに触る小指
椋本望生
- 敗戦忌野球にうつつぬかし居り
栗の実を拾ふ土偶のでかき尻
村松道夫
村松道夫
- 【佳作】 人気者よるとさはるとねこじやらし
村松道夫
- 鬼やんま遮断機下りる中へかな
三歩程前行く妻や秋落暉
村山好昭
村山好昭
- 【佳作】 雑兵の満開であり菊人形
村山好昭
- 誰の死を悼むか法師蟬の鳴く
シャワー浴ぶ鯨は空へ気を放つ
百千草
百千草
- 【佳作】 我が街を虎視眈々と野分かな
百千草
- 【佳作】 地下資源眠らせ太るさつまいも
入道雲阿吽の像のかたちして
森岡香代子
森岡香代子
- 点と線得意としてる虹の帯
森岡香代子
- 残暑見舞の定型文に暑さ増す
八木 健

入り口が出口と知るは厄日かな	八洲忙閑
【佳作】秋風が廃屋に来て泣きにけり	八洲忙閑
寝間仏間居間も厠も残暑かな	八洲忙閑
同じ陽を浴びた同期の今年米	八塚一青
揚げ方を考えている鯊の秋	八塚一青
【佳作】立ち止まることも覚えた秋の蟻	八塚一青
【佳作】老年の程よく噛める運動会	柳 紅生
台風の裏も表も大車輪	柳 紅生
稔りの秋虫も歓喜の大合唱	柳澤京子
頭を下げて食卓登る蟻二匹	柳澤京子
【佳作】うつ伏せに稲穂台風やり過ごす	柳澤京子
半額となれど松茸見てるだけ	柳村光寛
峠には去年と同じ葡萄売り	柳村光寛
【佳作】店員に旨いか聞いて買う林檎	柳村光寛
【佳作】リリーフはナイターが好き秋の虫	山下正純
お日様の陰りが頼り秋暑し	山下正純
【佳作】経験も気合も無力だつた夏	山本 賜
蚊帳吊草の花につながる昔	山本 賜
【佳作】農継がぬ若衆ばかり村祭	横山喜三郎
童謡は老謡となり敬老会	横山喜三郎
これ以上脱げずはしよれぬ酷暑かな	横山喜三郎
豊漁の匂い新鮮秋刀魚どち	横山洋子
無花果に雄花と雌花二つ割り	横山洋子
【佳作】月見酒孫の御酌といふ至福	横山洋子
【佳作】夏料理白磁の皿を彩れる	吉川正紀子
蝉の声かき消されたる庭の朝	吉川正紀子
二の腕の黒色夏の置き土産	吉川正紀子
のつけから滾(たぎ)る老の血まつり笛	吉原瑞雲
【佳作】しみじみと修羅の爪痕見入る秋	吉原瑞雲
【佳作】現場実習先決まりたる休暇明	渡部美香
師の訃報知らぬかに鳴き法師蝉	渡部美香
うらなりも南瓜の甘き父の畑	渡部美香